

# 水戸部先生の話聞く会

「なんで、医者が、エネルギー問題に」

2011年3月11日東日本大震災から、もはや14年目になろうとしています。あの時の地震の恐怖は、いまだ忘れることはできません。さらにその後の福島第一原発の爆発は、多くの方の生活、生き方も変えてしまいました。

そんな中で、全日本民主医療機関連合会(民医連)の医師であった水戸部先生は、脱原発運動に参加し、退職後、同じ想いの仲間たちと、市民発電所を立ちあげました。今では10か所で発電を行っています。

どうして、医者だった先生が発電所を、??

私たちが医師として尊敬している水戸部先生が、どのような想いで「電気屋(先生曰く)」になったのか、同じ民医連で働いていた私達は、ぜひ聞いてみたい、そして多くの方にも聞いてほしいと思い、この会を企画することとなりました。

現在医療や介護に携わっている方、元携わっていた方、医療関係者以外で話を聞いてみたい方、多くの方の参加をお待ちしています。

日 時: 2025年3月8日(土) 13:30~15:30

会 場: つばさ薬局長町店3階会議室(長町4丁目3-26)

無差別・平等の医療  
に魅せられて

民医連に  
きかけ



- ①もともと電気や機械が好きだった
- ②社会の健康 環境問題 放射能や温暖化
- ③エネルギーを民衆の手に

こんにちわ、ご無沙汰しています。

長町病院の診療を離れてまもなく3年になります。

Kさんとか務所あがりの患者さんなど、長町の皆さんに大変ご迷惑おかけしました。

私は昨年医者の不養生から大腸癌の手術を受けました。

今日このような機会を設定していただいたのは、老い先を心配してくれた実行委員のみなさんが、「今のうち言いたいことを言わせよう」と企画してくれたと思います。

そういうことで、今日は、言いたいことを言わせてもらいます。

テーマは「なんで、医者がエネルギー問題、電気屋を？」ですが、そもそも何で医者をやってきたのかも含めて、話したいと思います。

医者を選んで医学部に入ったのは、親の圧力で「僻地医療」をやらなければという思い込みからです。最初から民医連に入ろうと思ったわけではありません。

民医連に入ったのは、医学生時代、どんな医者になるか考えているとき、この本に出合ったのがきっかけです。津川武一さんの「医療を民衆の手に」です。

「無差別平等の医療」に惹かれて民医連の門をくぐりました。

以来、ずーっと民医連です。

それとの関連で言えば、「何で電気屋まで」ということですが、津川流に言えば、「社会の健康のため、エネルギーを民衆の手に」となるかと思っています。

もちろん、電気や機械をいじるのが好きだったということもあります。

そういえば、長町病院に研修に来た時に、DCショッカーを手作りしたこともありました。何回か使っているうちに、煙をだしましたが・・・

それでは、その辺の経緯を、立ち入って話したいと思います。

## 今日の話

- ☆ 自己紹介(コモンへのあこがれ)
- ☆ 2011.3.11の衝撃
- ☆ 被ばく者のこと
- ☆ 気候危機のこと
- ☆ 未来のエネルギーを求めて シニアの懺悔とチャレンジ
- ☆ エネルギーを民衆の手に(電力を身近なものに)
- ☆ よくないエネルギーには NO! を
- … 時間があれば …
- ☆ 孫たちのためにも、平穏な未来を求めて

今日の話は、自己紹介から始まり、  
エネルギーや環境問題に関わるようになった、3.11と原発事故  
そして、長町病院時代関わった被ばく者健診と医療

喫緊の課題になっている気候危機のこと

このような時代を作ってきた団塊シニア世代の懺悔とチャレンジ

そして、エネルギーを民衆の手に、という心意気で進めている普及活動

一方で環境によくないエネルギーに、NOという活動も

そして… 時間があれば …

戦後80年

プーチンとかトランプとかとんでもないリーダーが現れ、不安定化する世の中で  
孫たちのためにも、平穏な未来を求めて、もがいていることにも触れたいと思います。



# ☆ 2011.3.11の衝撃



私の老後を変えた、3.11の衝撃です。  
みなさんも大きな衝撃を受けたと思います。  
東北電力管内は長期停電し、仙台港の石油基地は1週間に渡って炎上し、ガソリンや灯油を求めて長蛇の列ができました。

そして、原発の爆発・メルトダウンです。

あとから知ったことですが、女川原発は、津波がもう1m高ければ同じ過酷事故になっていたかもしれないということです。

この福島汚染区域を、北に100km平行移動すれば、私たち宮城県民も故郷を追われることになったということです。

同じように破壊されたエネルギー基地ですが、石油基地はまもなく復旧しましたが、福島原発は、そのままでデブリをようやく耳かきいっぱい取り出し、先が全く見えないということです。

一方、これは我が家の太陽光パネルですが、震災の2年前につけましたが、日中日が照れば電機は使える状態でした。

このように、社会生活を支えるエネルギーインフラの問題を、3.11は突きつけました。

# ☆ 被ばく者のこと

## 被爆者 H さんのこと (原爆症認定裁判)

昭和13年 広島で生まれる  
8歳、広島市内 1.8kmで被爆 (150ms)  
37歳、**胃癌**で胃切除術、以後ダンピング、貧血続く  
2003年から**原爆症認定訴訟**、2007年ようやく認定された  
73歳、**肺癌**がみつき、手術と化学療法  
(2019年9月 81歳 肺炎で死去)

DS86をもとにした  
原因確率に基づく  
機械的認定との争い

<原発の反倫理性>  
過疎地への押しつけ  
労働者への押しつけ  
子孫への押しつけ

## 原発作業員の現状、人体への影響



原発事故は、放射線被ばくの問題も改めて突きつけました。

核分裂の莫大なエネルギーを、原爆は兵器として、原発は動力として利用します。  
問題は、結果として吐き出される放射線であり、その被ばくです。

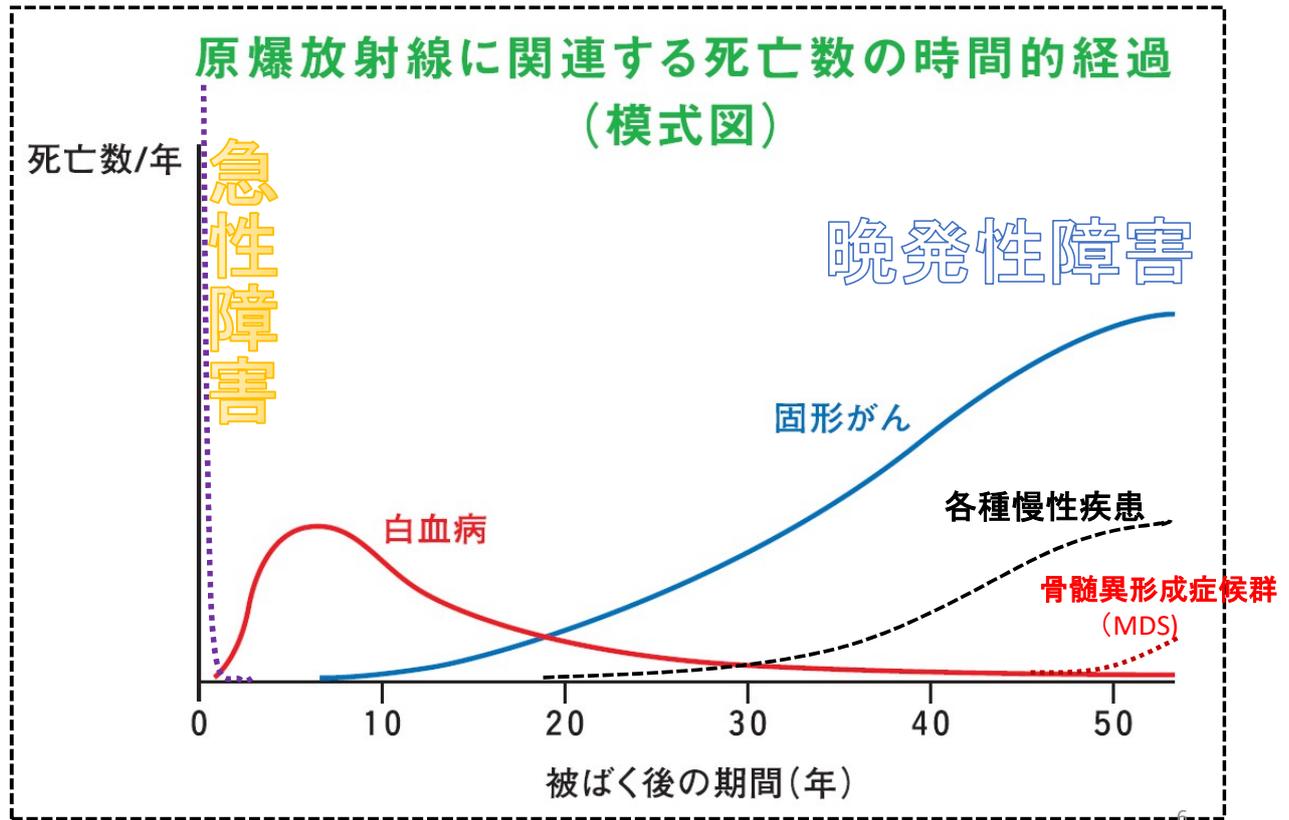
長町病院で、被爆者外来に通いながら、原爆症認定のために一緒に裁判をたたかった波多野さんのことを一例として報告します。  
彼女は、8歳で広島で爆心地から1.8kmで被ばくしました。計算上の直接被ばく線量は150mSです。  
幸い生き延びたのですが、37歳で胃癌で胃を切除し、その後ダンピングや貧血で通院していました。政府が、DS86という爆心地からの機械的距離で計算し原爆症とは認めず、裁判になりました。4年越しでようやく認定となりました。  
しかし、73歳で肺がんとなり、化学療法で食い止めたのですが、81歳で肺炎でなくなりました。

今は、二人に一人は癌になる時代とかいわれますが、被爆者は一人で二つ三つの癌を背負うことが往々にしてあります。  
今も福島原発事故の後始末で毎日3000人前後の方が作業に当たっています。防御はしていても、被ばくは避けられず、このように白血病や肺がんとなり労災認定を受けています。

私は、原発に反対する最大の理由は、その反倫理性です。  
倫理的でないということは自分に嫌なことを他人に押し付ける、外部化することです。  
東京の電力を、東京湾や皇居にではなく、遠い過疎地の福島や新潟に押し付ける。  
処理も含めて被ばくリスクを伴う労働を、自分と無関係な作業員に押し付ける。  
処分できない核のゴミを、孫子など未来の世代に押し付ける。  
その構図が反倫理的なのです。  
「人として許せない」ということです。

## 被爆者の放射線関連死の年次推移 模式図

(放射線影響研究所資料から 点線は筆者追加)



これはよく出てくるグラフで、生き残った広島長崎の被爆者の追跡調査で、被爆しなかった人々との死亡率の比較です。

このように、放射線被ばくは、40年50年と時間がたってからじわじわと現れてきます。これを晩発性障害といいます。

低線量被曝は、浴びた瞬間や数年は、殆ど影響は現れませんが、年を重ね、加齢現象の中で大きな変化として出てきやすくなります。

例えば私は昨年大腸癌になりました。

私が小学校の頃、米口仏は平気で大気圏核実験を行い、地球規模で放射性物質を撒き散らしました。

当時「雨に当たってはいけない」などと言われました。

そんなことを何にも知らずに、私は山猿のように野山を駆け回って遊んでいました。

この脱毛も、昨年の大腸癌もその影響が出たのかもしれませんが??。

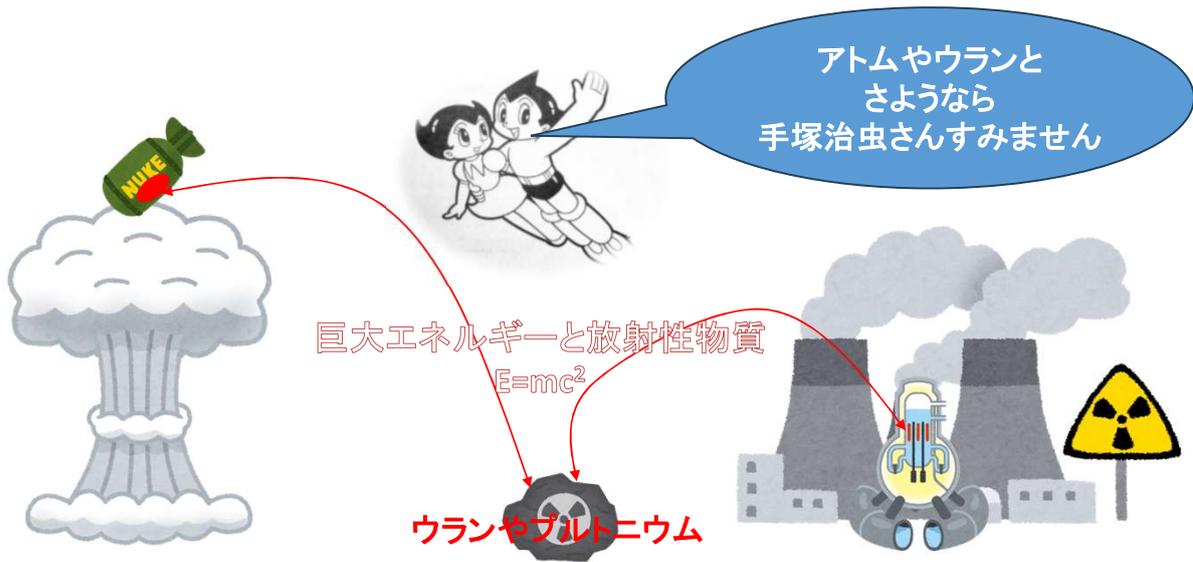
証明しようがありませんが……

弁償しろとアメリカやソビエトやフランスに言いたいところです。

少なくとも、癌治療の医療費の10%くらいは払えと!

# 原爆(兵器) と 原発(エネルギー)

～ どちらもいない ～



**注) 放射線診断・治療など、管理された放射性物質の利用は必要**

原爆は核エネルギーを瞬間的に発生させ、原発はゆっくりと発生させるだけで、材料も原理も同じで、双子の兄弟のようなものです。

私は、昔原子力の平和利用という、レトリックを信じこまされ、手塚治虫の10万馬力の鉄腕アトムに夢中になっていた少年でした。

こんな小さな体で、10万馬力なんて原子力以外には出せません。  
手塚治虫先生には悪いけど、アトムやウランにさようならしたいということです。

ご存じのように、原発は原爆の材料になるプルトニウムを作る手段として必要なものです。このため原発にこだわる政治家もいます。

今の首相の石破さんは、2011年政調会長の時「原発は核武装のために必要」と核抑止の潜在力として公言しています。

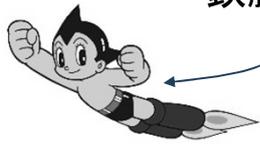
なお、原爆や原発は絶対NOですが、核医学や核物理学など、きちんと管理された放射性物質は必要なものですので、誤解しないでください。

2011年の原発事故までは「トイレなきマンション」と知りつつも

「鉄腕アトム」「原子力の平和利用」というレトリックで

「ボートと生きてきた」自分

出発は、脱原発宮城金曜デモ



➡ 原発に代わるエネルギーを自分たちの手で

8

このように、子どもの頃は、鉄腕アトムに無邪気に憧れ、大人になっても「原発がトイレなきマンション」と知っていたにも関わらず、ボート生きてきた私に、チョコちゃんのように、3.11が、カウンターパンチを、食らわせました。

以後、改心して「原発NO」の声をあげ、このように金曜デモにも参加するようになりました。

今は亡くなりましたが、脱原発ワンちゃんも参加していました。

私は、海が汚され、好きな釣りができなくなった恨みを、釣り竿に提灯をぶら下げて参加しました。「海をきれいに」と提灯に書いて。

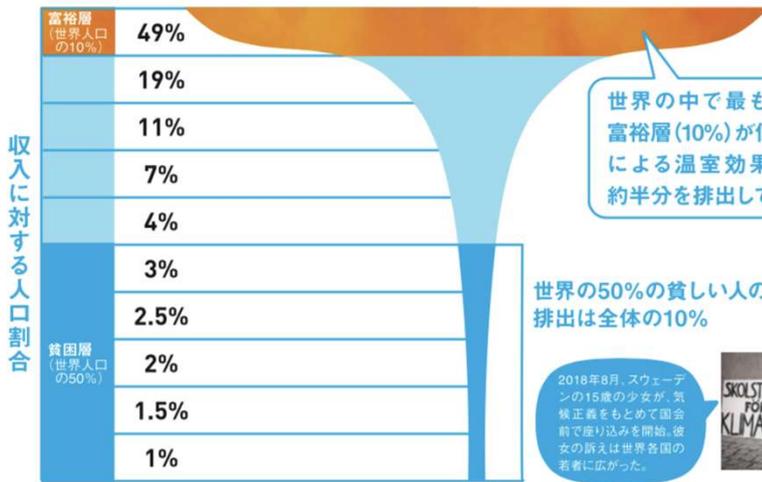
しかし、原発NOを訴えるだけでなく、それに代わるエネルギーを自分たちで作れないかと考えたわけです。

当時、民主党政権下で成立した、再エネ普及のための固定買取制度、いわゆるFITが一般化し、市民レベルで発電事業に手を出せる状況がありました。

特に、太陽光発電は技術的にも容易でコストも下がってきていました。



世界人口と温室効果ガス排出量



出典: Oxfam "Extreme Carbon Inequality" 2015

# 「気候正義」は世界の若者の声

お金のこと、経済発展がいつまでも続くというおとぎ話ばかり。恥ずかしくないんでしょうか！



2021/2/13 蒲生の舟要洞場前でFFF仙台のメンバーとスタンディング



成長=いいこと  
大量生産・大量消費・大量廃棄  
の文化をひた走った団塊世代

さらに、未来を担う若者たちにとって、気候危機はより深刻です。

彼らは、自分たちの危機だけでなく、CO2を圧倒的に多く出している富裕層の対極で、あまり出していない途上国や貧困層が、海面上昇・干ばつ・飢饉・洪水などで、その被害を一方的に受けてしまう構図を、正義に反するとして、気候正義を掲げ、その是正を求めています。

私は「正義」という言葉を正々堂々となく語る若者に、私の青春時代を思い出して、ものすごく感銘し共感しました。

金曜スト行動を始めたスウェーデンの高校生クレダさんのこの言葉はきつかったですね。「お金のこと、経済発展がいつまでも続くというおとぎ話ばかり。恥ずかしくないんでしょうか！」と

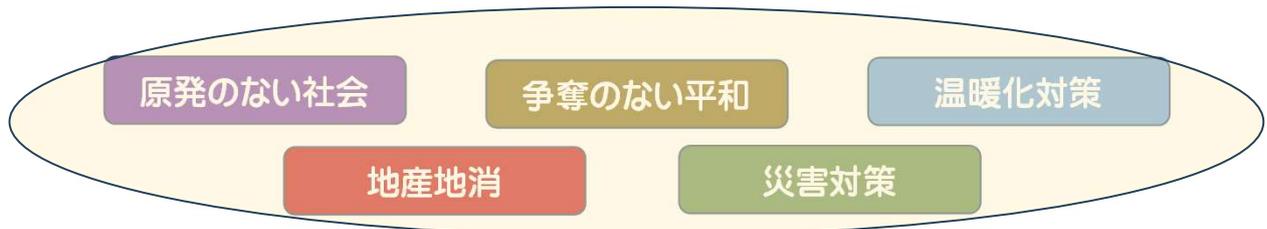
戦後、成長=いいこと、大量生産・大量消費・大量廃棄の文化をひた走った団塊世代の、このおじいさんに、鋭く反省をせまりました。

それに応えて、FFF仙台の仲間と一緒に、仙台パワーステーションを背景に、スタンディングをしています。ここは、あとで話す蒲生発電所のところです。

# ☆ 未来のエネルギーを求めて シニアの懺悔とチャレンジ

## NPO法人 きらきら発電・市民共同発電所

### 「地域の中で住民と共に」5つの理念



- ・1号機 2015年 若林区井戸浜 50KW (FIT) 津波被災地の宅地借用 野立て
- ・2号機 2015年 太白区柳生 30KW (FIT) 保育園の屋根 ⇨2020年社会福祉法人に寄贈
- ・3号機 2016年 塩釜市花立町 16KW (FIT) 保育所の屋根
- ・4号機 2018年 亘理町長瀬 50KW (FIT) 津波被災地の農地購入転用 野立て
- ・5号機 2019年 多賀城市伝上山 50KW (FIT) 病院駐車場にルーフ型
- 5.5号機 2019年 山形県最上郡 20KW (FIT) 豪雪地ソーラーシェアリング実証実験
- ・6号機 2020年 宮城野区蒲生 10KW (FIT) 個人宅の屋根仮借り方式
- ・7号機 2021年 若林区なないろの里 4KW (FIT) 個人宅の屋根借り方式
- ・8号機 2022年 若林区荒井 4KW (FIT) 個人宅の屋根借り方式
- ・9号機 2023年 泉区南中山 4KW (FIT) 個人宅の屋根借り方式
- ・10号機 2024年 青葉区台原 4KW (FIT) 個人宅の屋根借り方式
- ・11号機 2025年予定 泉病院 30kw 病院屋上 自家消費 (PPA)

2024年10月現在  
 会員・準会員 約300名  
 基金 約8000万円  
 (10年無利息返済)  
 寄付金 約1200万円

以上のような、原発政策に順応し、大量生産・大量消費・大量廃棄を走ってきたシニアが、懺悔して、発電事業にチャレンジすることになりました。

10年前の2014年、この「五つの理念」を掲げて、この指とまれで始めました。

第1は脱原発、第2に平和、第3に脱炭素、第4にエネルギーの地産地消、第5に防災対応です。

「平和」は、漠然とした目標に思うかもしれませんが、歴史的に争いの背景にエネルギー資源をめぐる争奪があります。中東はその例です。

エネルギーと食べ物(食物は広い意味で私たち生物のエネルギー)が自分たちで賄えれば、他から奪い争う必要はなくなるわけです。

この呼びかけに多くの仲間が参加してくれて、この10年で、NPOの賛同会員含めて約300名、寄付金含めて約9000万の資金があつまりました。

基金は10年間無利子で預かり、発電の役割を終えて10年後に返すという仕組みです。

発電所も10号機まで建設し、本年5月には新築する泉病院に30KW の自家消費型パネルをのせ、環境にやさしい病院にしようと考えています。

各発電所建設には、それぞれ物語がありますが、時間の関係でその一部を紹介しします。

なお、2020年で10KW 未満の家庭用発電以外、固定価格買い取り制度が変更され、それ以降は家庭の屋根借り方式や、自家消費方式に変えました。

# 第1号機 若林区井土浜発電所

(2015/9/5 開所式)

50KW(76KW過積載) 32円/KW・20年FIT売電



## 津波被災の仙台・若林区井土地区

### 市民出資で太陽光発電

東日本大震災で津波被害を受けた仙台若林区井土地区で6日、市民が出資した小規模太陽光発電所の開所式があった。運営を担うNPO法人きらきら発電・市民同発電所(仙台市)は「再生エネルギーの活用を通じ、被災地から脱原発を望みたい」と意気込んだ。

NPO法人によると、市100平方メートルに太陽パネル約30枚を約60人が無償で出資した。発電した電力は東北電力に売電し、宮城県への電力を賄えるという。助成と合わせて総事業費は約2200万円を工面し、設置工事は8月に始まり、今月中に稼働する。

総事業費2200万円 今月稼働

### 「脱原発訴える」

出資金は計900万円集まっており、NPO法人は太白区柳生にも太陽光発電所を整備し、早ければ10月に稼働させる方針。約30人が出席した開所式で、水戸義典理事長(68)は「市民による小さな発電所を各地に広げ、脱原発の動きを加速させたい」と述べた。

井土地区は震災前、約100戸約500人が暮らしていた。現在は約20人に激減し、周囲にほ場が広がる。町内会役員の大友



第1号機、井土浜発電所です。一番思い出深い発電所です。

井土浜は、津波被害で多くの家屋が流され、仙台市は一度危険区域に指定しました。多くの住民は、居住をあきらめ内陸に新たに居住を求めました。しかし、防潮堤とかさ上げ道路建設が具体化されると、仙台市は一転して居住可能に変更しました。しかし、帰る世帯は1割で、広大な荒れ地が残され、地主さんたちも頭を抱えていました。

ちょうどその頃、私たちNPOが20年間市民発電のため空き地を探しているという話が、地域の議員さんや地主さんの耳に入り、そこにジョイントが生まれました。

この井土浜は、私が当時所長をしていた若林クリニックから車で5分くらいの地域で診療圏でもありました。

この写真は、開所式の集合写真です。10年前の懐かしい顔ぶれがみえます。(私も含めて、みなさん若かったですね。)

河北も取材に来てくれ、このように「脱原発」の市民発電所として紹介してくれました。

## 第2号機 太白区柳生もりの子保育園発電所

(2015/9/28 開所式)

30KW 32円/KW・20年FIT売電



これは2号機です。太白区の柳生もりの子保育園の屋根に設置しました。  
仙台市の委託を受けて、宮城厚生福祉会が管理運営している保育園です。

この写真が私の好きな一枚です。  
パネルに日が差し、親と園児が運動会で楽しんでいる。  
未来の姿をイメージさせます。

この発電所は、2020年に、宮城厚生福祉会に「未来への贈り物」として寄贈しました。

# 第6号機 宮城野区蒲生発電所

(2020/11/28 開所式)

10KW 21円/KW・10年FIT売電+自家消費



蒲生の6号機も思い出深い発電所です。

ここは住まいではなく、津波で亡くなった息子さん二人の弔いの場所で、その二人の名前をとって、「舟要洞場」と呼んでいます。

息子さんを亡くした笹谷さんは、仙台市から、蒲生からの立ち退きを求められましたが、頑として拒否しここに洞場を建てました。このように観音様もあります。

この場所から北西約500mのところ、「悪名高い仙台パワーステーション」があります。笹谷さんもきらきらの会員になり、息子さんの供養のために、そして、石炭火力なんかではないクリーンなエネルギーを作りたいということで発電所を計画しました。

このような訴えに、蒲生を守る会など住民の方々からも300万を超える寄付が寄せられ、全額寄付で10kwの発電所が建設できました。

みなさん、ここは蒲生干潟のすぐそばですから、干潟の観察のときにでも是非立ち寄ってみてください。

笹谷さんの奥さんが入れてくれる美味しいコーヒーもいただけます。

ここでは、小規模な集会やイベントも可能です。

実は、6月15日に、母親大会企画で、仙台の発電所めぐりを行う予定で、この洞場で一服する計画です。

## 第10号機 青葉区台原 多々良邸

(2024/12/6 開所式) 4KW屋根借り方式



最後に10号機を紹介します。

宮城の脱原発運動の先頭に立つ多々良さんの自宅の屋根を借りての発電所です。

昨年の12月6日です。

ちょうど前日に女川原発が再稼働したところで、それへの抗議も含めて、記念すべき開所式でした。

この女性の方は、パネルの設置事業をおこなっているプロジェクトウサミの社長さんです。

右上の写真は地上からはパネルが見えないので、ドローンで撮影したものです。

ここに見えるのは、薪ストーブの煙突です。

多々良邸は、ZEH(ゼロ・エネルギーハウス)に近い状態になります。

# ☆ エネルギーを民衆の手に(電力を身近なものに) 「電気を作って体験しよう その1」

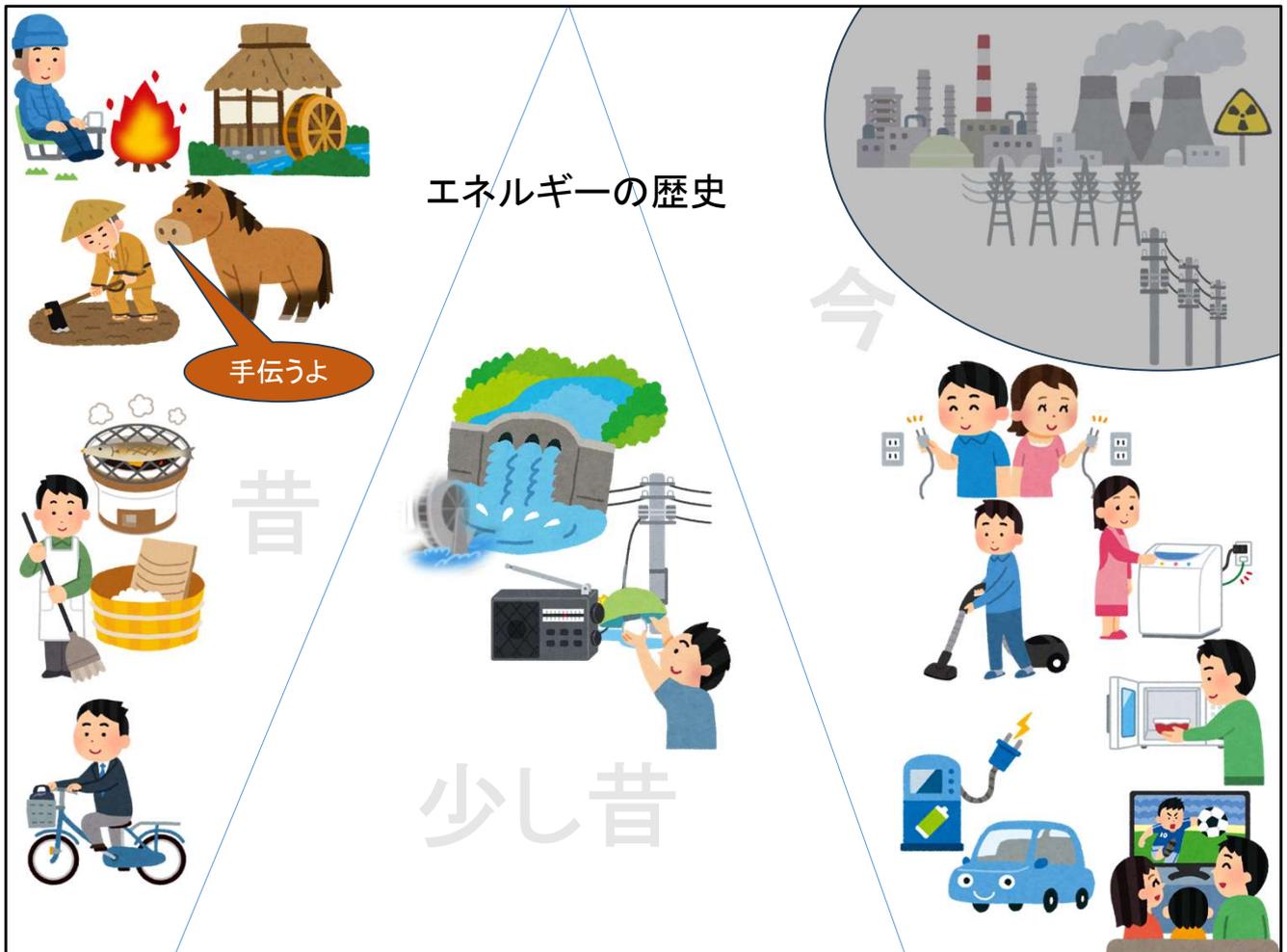
2022/11/19 井土プチマルシェに「NPOきらきら発電」として参加しました。  
井土浜は仙台の津波被災地で復興が最もおこなわれている地域です。  
2015年にきらきら1号機が建設された記念すべき地区です。



このような市民共同発電事業を行う傍ら、私の趣味半分のところもあるのですが、電気やエネルギーを身近なものにしてもらいたいという思いで、イベントなどで発電やエネルギーのデモンストレーションも行っています。

これは、1号機を立てた井土浜のプチマルシェでデモを行っている動画です。

足踏み発電機でおもちゃを動かしたり、明かりをともしたり、音楽をならす。  
左側では、圧縮空気発電も行っています。  
携帯用太陽光パネルで、水車発電を実演する。  
太陽熱で調理するソーラークッカーなどもデモしています。



考えてみれば、昔生活のためのエネルギーは薪も火も炭も、水車や風車や牛や馬も私たちの手の内、地域の中にありました。

少し昔は、電力は各地域の水力発電でした。  
100年前、仙台の山居沢発電所は、宮城で最初の水力発電所で、灯りを灯しました。  
この発電所は今でも現役です。  
オーストリアでは自宅に水力発電機を持っている方もいます。

ところが、電力の寡占化と化石燃料や原子力依存が急速に進み、庶民はコンセントに刺すだけで、よくわからないまま、メーターで料金を請求される、極めて受け身の立場に置かれてしまいました。

便利さと引き換えに、私たちは巨大なエネルギー資本の隷属下に置かれてしまっています。そして結果的に、原発事故と気候危機です。

もう一度、エネルギーを原点に帰って、見直してみようというのが私の思いです。

しかも太陽光発電という極めて安価で手軽な発電装置を、私たちが手にすることができる時代です。

エネルギーの中央集権から、地産地消、さらには「自産自消」を目指そうということです。かっこよく言えば「エネルギーの民主化」です。



仙台中心部の広瀬川沿いにたなすむ白壁の木造平屋に入ると、巨大な水車の発電機が横たわる。コンクリート造り音が響く。三居沢発電所(仙台市青葉区番台)。日本の水力発電発祥の地で、地域に電力を送り続けている。

### 三居沢発電所

仙台市青葉区



見隊



三居沢発電所の水車発電機。1924年製の発電機は3代目。今も稼働を続ける



落差約27mの水圧鉄管。毎秒最大5.57立方mの水量が流れる

## 日本初水力の明かり今も



### 吉野ヶ里町松隈地区、稼働1年

## 小水力発電、全国から注目



コンテナ内の小水力発電のシステムを説明する松隈地区づくり株式会社多良正樹社長(左)と吉野。撮影:佐賀新聞

「環境問題が叫ばれる中、再生エネルギーの重要性がますます高まっています。中でも、自然エネルギーの小水力発電は、環境に優しく、持続可能なエネルギーとして注目を集めています。吉野ヶ里町松隈地区では、地域住民の力で、小水力発電所を建設し、稼働を開始しました。これは、地域活性化と環境保護の両面から、大きな意義を持つ取り組みです。また、この発電所は、地域の歴史と文化を大切にしながら、新しいエネルギーを生み出すことで、地域に誇りと自信をもたらしています。今後も、地域住民の力で、持続可能な地域づくりを進めていきます。」

### 知事会表彰も 再生エネで自立の地域づくり



河川からの取水口。砂などの流入はこらへの堰で受け止めます

この地では、再生エネルギーの重要性がますます高まっています。中でも、自然エネルギーの小水力発電は、環境に優しく、持続可能なエネルギーとして注目を集めています。吉野ヶ里町松隈地区では、地域住民の力で、小水力発電所を建設し、稼働を開始しました。これは、地域活性化と環境保護の両面から、大きな意義を持つ取り組みです。また、この発電所は、地域の歴史と文化を大切にしながら、新しいエネルギーを生み出すことで、地域に誇りと自信をもたらしています。今後も、地域住民の力で、持続可能な地域づくりを進めていきます。」



左は、3月3日の朝日宮城版です。たまたま山居沢発電所が紹介されていました。この発電所は、今から136年前、宮城県で初めて電灯をつけたそうです。同時「キツネ火」を言われたそうです。今も現役で発電しています。

右の記事は、3年前の佐賀新聞の記事です。元町長の多良さんが、松隈地区の水路を利用して、30KWの小規模な水力発電所を建設した記事です。

資金は、住民出資で、売電収益は地域のために使うという方式で、「佐賀モデル」と有名になりました。

実は、ふるさと金山で作ろうという発電所はこの方式にしようと、2月7日にオンライン学習会を開きました。

巨大なダムによる発電ではなく、地域の水路を利用した身の丈にあった小水力発電は、魅力的です。

特に、水力は太陽光や風力と違って、昼夜安定して発電してくれます。

蛇口をひねれば、灯りが着くというイメージです。

## 「電気を作って体験しよう その2」

### ゼロカーボンシティ宣言にチャレンジ 金山中で環境教育学習を実施



▲環境教育学習の様子

11月25日、「金山町のゼロカーボンシティ宣言にチャレンジしよう」をテーマに、NPO法人かねやま電雪理事の水戸部秀利氏による学習会が金山中学校1年生を対象に開催されました。エネルギー（電気）の地産地消や再生可能エネルギーを導入することの重要性を学んだほか、足踏み発電機を使用して電気を発電させる体験も行いました。水戸部氏は「ゼロカーボンは我慢ではなく、未来を豊かにするもの」と語られ、生徒たちは楽しみながら環境に対する理解と関心を高めました。

### 水力発電楽しく学ぶ 大崎の保育園が学習会

水力発電について子どもたちに楽しく学んでもらうべく、再生可能エネルギーの普及に取り組む県内4団体でつくる「みやぎ地域・市民電力連絡会」は6月29日、大崎市の古川くりの木保育園で環境学習会を開いた。

園児や保護者ら約40人を前に、連絡会のメンバーが水力発電の仕組みや歴史を説明。園庭に自転車の車輪で作った水車を設置し、水道水を出した。クマの人形が動き出したり、扇風機が回ったりする様子に子どもたちは大はしゃぎ。井口瑞月ちゃん(5)は「太陽で電気が作れるのは知ってたけど、水でクマが動いて面白い」と笑顔で話した。

・市民共同発電所の水戸部



水車で動き出したクマの人形に興味津々の園児ら

秀利理事長は「楽しみながら再生エネに興味を持ってもらえた」と話した。

学習会は昨年が続いて2回目。同園は2022年、自家消費向けの太陽光パネル7・8kw分を設置し、年間使用する電力の10・6%を賄っている。

再エネ、デモその2です。

左は昨年古川くりの木保育園で行った環境教育で、河北が取材記事にしてくれました。この保育園の屋上にエコスタイルという会社が震災助成企画で、無償で7KWの太陽光パネルを付けてくれました。ただし条件として、年1回地域で環境教育を行うことがあります。昨年はその2回目で、水力発電実験を親子で行ってみました。

自転車のハブダイナモ発電機を利用し、水道水の水圧で車輪を回して発電します。それで、おもちゃのくまさんを動かします。

くまさんは、子どもたちにたたかれたり、引っ張られたり大変だったようです。

右が、私のふるさと金山町の広報からの記事です。

金山町も一昨年、ゼロカーボン宣言をしたので、再エネとは何か、どんなふうにして電気を起こせるかを母校の中学1年生を対象に、私が授業しているところです。

最初に、「電気を作ったことがある人」と聞くと、手を挙げたのは一人だけでした。

次に、「電気を貯めたことがある人」と聞くと誰も手を上げませんでした。

そのあと具体的に、「夜自転車で灯りを付けたことがある人」と聞くと全員手を上げ、さらに「スマホを充電したことある人」と聞くと全員手をあげてくれました。

お手元のA3裏表の資料は、私たちかねやま出身の同級生が立ち上げた「NPOかねやま電雪」の通信12号です。

裏面に、小水力発電についての私の文書が載っています。

今後の道のりは長いですが、ふるさと金山で、住民所有の小水力発電所建設を何とか実現させたいと思っています。

私が、金山在住ではありませんが、この「かねやま小水力発電推進協議会」の責任者です。山形県も金山町も、後押ししてくれています。

ようやくその一歩を踏み出したところです。

☆ よくないエネルギーにはNO!を  
2017年10月から稼働している仙台PS

温暖化

CO<sub>2</sub>

SO<sub>2</sub>

NO<sub>2</sub>

煤塵

オキシダント

PM2.5

石炭年間32万t 11.2万KW

仙台港の仙台パワーステーション 2018/1/1(月) フェリー埠頭から

もう一つは、よくないエネルギーには、きちんとNOと言おう！ということです。

2017年から、住民の反対を押し切って稼働した、石炭火力発電所「仙台パワーステーション」です。

関西電力の子会社、電力の殆どは関東に供給する、ちなみに、ここで発生するCO<sub>2</sub>は、消費地でカウントしゼロカーボン宣言をした仙台市はカウントしなくて良いことになっています。

利益は関西に、電気は関東に、汚れは被災地宮城県に！  
誰がみても理不尽ですね。原発と構図がにっています。

しかも、温暖化に最も悪影響のある石炭を、今後何十年と燃やし続ける。

今もモクモクと煙を吐いています。

## 2018.5.23(第2回公判) 仙台地裁前三角公園

2020年10月28日判決:稼働差止請求は棄却する。

しかし公害防止協定第20条「環境情報の公表や事業所の公開等, 地域住民に対する環境コミュニケーションを積極的に推進する」に違反しているとの指摘。

戦いの中で、四国電力の石炭火力撤退を促し、神戸や横須賀での裁判闘争へ



そこで、私たち周辺住民は、差し止め訴訟を起こしました。

団長は、東北大の長谷川教授、私と蒲生を守る会の千葉さんが副団長となり、3年間の裁判でした。

残念ながら、2020年10月28日、稼働差止請求は棄却されました。

しかし、公害防止協定第20条「環境情報の公表や事業所の公開等, 地域住民に対する環境コミュニケーションを積極的に推進する」に違反しているとの指摘されました。

また、この戦いの中で、四国電力は高松埠頭に計画していた石炭火力を撤退し、神戸や横須賀での石炭火力差し止めの裁判闘争へとつながっていきました。

今も、「仙台港の石炭火力建設問題を考える会」は継続しています。

# 保険医協会新聞から

シリーズ 女川原発廃炉への道 2024/2/25

●シリーズ● 女川原発廃炉への道 No.61

## 再稼働に抗議して(原発模擬実験)

公害環境対策部員 水戸部秀利



講演会の様子(11月15日 エル・パーク仙台)

2024年10月29日、多くの県民の不安をよそに女川原発2号機を再稼働した。メルトタウンした福島第一原発と同式のBWR、無数の傷を負った被災原発、13年のフランク、地震津波多発地帯、避難実質不可、東北の電気は足りている、使用済み燃料の処理未定。事故つたら誰も責任を取らないし取れない。案の定、5日後に

「資源の少ない日本も国内の再生エネルギーの視点からは全く当てはまらないこともデータをもとに解説した。また、よく言われる再生エネルギーの高コスト高、不安定、不足論も技術的・実践的に解決されつつあることを説明した。理屈っぽい講演の後、レクリエーションとして写真のような手づくりの「模擬原発」を持ち込んで発電実験のデモを行った。以下解説。

「原子力発電は、ウランの核分裂反応の熱でお湯を沸かし、高温高圧の蒸気でタービンを回して、その力をあり、演者を担当した。もちろん主催者も参加者も「脱原発」「脱炭素」の基本的な方向を共有している。話題の中心を、政府が「石炭火力延命策」にこだわり、「原発回帰・推進」に転換した背景とその理由として持ち出した「温暖化対策」「AIなど電力需要増大」について、為にする世論誘導であること

発電機で電気に変えています。熱の作り方は違いますが、通常の火力発電と原理は同じです。模擬実験では、安全上ウランや高温高圧の蒸気は使えないので、市販の噴霧器を利用し、原子力の代わりに人力で空気を発生させ、その力で圧力タービンを動かし、それを発電機に伝えて発電します。発電した電気は、灯りがつければ「成功」で、めでたく「原子の火」が灯ったことになりました。会場からは「原子の火」が灯り、拍手があがった。もちろん「皮肉」の拍手である。噴霧器の壁には、修理のツギハギの絵も書いています。圧力バントも付いている。ちなみに、電球は10ワットのLED球で、携帯用の10ワットの太陽光パネルと充電器で簡単に点灯できる。大掛かりで複雑な原発ではなく、再生エネルギーができることも示した。付この模擬原発は、どこでも貸出・実演は相談・可能です。ご希望の方は、TEL 090-8782-4938、またはメール h-mitobe@wa2.so-net.ne.jpまで。



原発NOの声もあげ続けています。

残念ながら、女川原発は住民の反対を押し切って、昨年10月29日に再稼働し、12月26日から商用運転しました。つまり、電気には色は着いていないけれども、その日から東北の電気は汚れてしまいました。

これは、宮城保険医協会発行の新聞に定期的に掲載している「廃炉への道 No61」に掲載させてもらったものです。

東北電力に、あまり強い怒りをぶつけても、血圧も上がり、精神衛生上良くないので、原発を「おちよくて」みる企画にしました。昨年11月29日に、宮城新婦人の企画の集会に呼ばれて、「模擬原発」を持ち込んで実演したときの様子を書いたものです。

原発を持ち歩くのは物騒なので、今日は持ってきませんが、みなさんで、もしどこかで、「原発をおちよくてみたい」という希望があったら、実演に参上します。もちろん無料です。

## ☆ 孫たちのためにもガンバロウ！

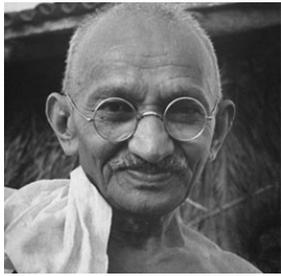


一昨年後期高齢者となり、そして昨年、大腸がんで入院手術、5年生存率70%となると、やはり弱気になります。

昨年の手術のとき、3才の孫と6ヶ月の孫から、LINEでメッセージがきました。  
(もちろん娘の設定ですが)

こう言われると、もう少し頑張らなくてはなりません。

# ☆ 平穏な未来を求めて 私の尊敬する人々



百の診療所より、一本の用水路を  
(中村哲)

『目には目を』では、  
全世界を盲目にするだけだ

非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ。

東に核弾頭を抱え込んで おどす国があれば  
愚かなことはやめろと言ひ  
西にミサイルを作る国があれば  
危ないことはやめろと言ひ  
南に軍事費を増強する政府があれば  
無駄なことはやめろと言ひ  
北に戦争をする国があれば  
つまらないからやめろと言ひ

東一病氣ノコトモアレバ  
行テ看病シテヤリ  
西一ツカレタ母アレバ  
行テソノ稱ヲ束ヲ負ヒ  
南一死一サウナ人アレバ  
行テハガラナクテモイメトイヒ  
北一ケンクワヤソシヨウガアレバ  
ツマラナイカラヤメロトイヒ

一日一玄米四合ト  
味噌ト少シノ野菜ヲタ  
風一モマケズ  
雨一モマケズ

かわいい孫たちのためにも、これからも平穏な未来を目指していきたいと思ひます。

いろいろな活動に取り組む上で、私の尊敬する3人の方です。

岩手の文学者科学者哲学者でもある宮沢賢治、医療の本道を突き進んだ中村哲、大英帝国を相手に、「不服従・非暴力」で立ち向かったガンジーです。

宮沢賢治は今の世なら、雨にも負けずでは、おそらく

東に核弾頭を抱え込んで おどす国があれば  
愚かなことはやめろと言ひ  
西にミサイルを作る国があれば  
危ないことはやめろと言ひ  
南に軍事費を増強する政府があれば  
無駄なことはやめろと言ひ  
北に戦争をする国があれば  
つまらないからやめろと言ひ

と、書いたがどうかはわかりませんが……

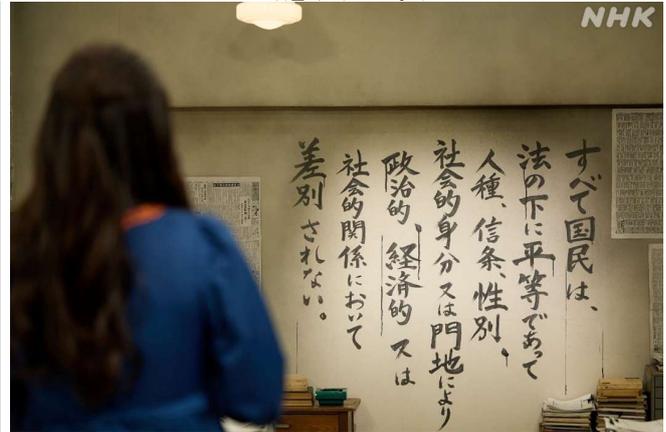
# 高め続ける 人権と民主主義

憲法12条 この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によつて、これを保持しなければならない。

2024/12/15日の朝日「日曜に想う」から

2024年朝ドラ「虎に翼」から  
(憲法14条)

戦後間もない1948年から数年間使われた、旧文部省の中学・高校の社会科教科書「民主主義」の記述は、独裁主義との対比もあり、味わい深い。「民主主義を単なる政治のやり方だと思ふのは、まちがいである。民主主義の根本は、もっと深いところにある。それは、みんなの心の中にある。すべての人間を、個人として、尊厳な価値を持つものとして、取り扱おうとする心、それが民主主義の根本精神である」



なぜ人を殺してはいけないのか？

日本国憲法は、天皇条項を除けば、前文も、9条も25条もすばらしい、人類の理想だと思います。孫たちにも、是非残していきたいと思います。

戦後77年、この憲法のもとで、私は育って生きてこれたことを良かったと思います。

憲法は12条に規定するように、私たちの「不断の努力」で維持し内容を豊かにしていく必要があると思います。

憲法を考える上で、今年のNHKの朝ドラ「虎に翼」はとても良かったと思います。特にこの壁の憲法14条は印象的です。

ドラマの中で、女子高校生が寅子に「なぜ人を殺しては行けないのか？」と問う場面があり、寅子は即座に答えられず、どんな答えを用意するのかとみていました。

昨年12月15日、朝日の日曜に思うで、民主主義を見つめる文章が掲載されていました。俗称民主主義の国で、トランプのような人物が多数で選ばれてしまう、一方、県民の多数が反対しているのに辺野古は埋め立てられていく。何かがおかしい…

昔の教科書にこんなふう書いてあったのだそうです。

「民主主義を単なる政治のやり方だと思ふのは間違いである。民主主義の根本はもっと深いところにある。それは、みんなの心のなかにある。すべての人間を、個人として、尊厳な価値を持つものとして、取り扱おうとする心、それが民主主義の根本精神である。」

民主主義は単なる数合わせではないと。なかなか、味のある内容だと思います。

# 国境って？



2023/2/18

若林クリニックそばの仙台平野の田んぼ  
(ロシアのウクライナ侵略から1年)

...

Imagine there's no countries  
It isn't hard to do  
Nothing to kill or die for  
And no religion too  
Imagine all the people  
Living life in peace...

You may say I'm a dreamer  
But I'm not the only one  
I hope someday you'll join us  
And the world will be as one

...

ロシアのウクライナ侵略から1年、終わりの見えない戦争で、若林クリニックからバイクで帰る途中で、田んぼで落ち穂を喋っている白鳥の群れをみて写真を撮りました。彼らは、これからシベリアに帰るのかと思いながら、少し感傷的になり、

ジョン・レノンのイマジンを思い出しながら...

国境や宗教がない世界をイメージしてみよう

だれを殺すことも、誰も死ぬこともない

みんな、平和に生きていける

そんなの夢だと言うかもしれないが、その夢は私一人てなく、つながれるかも

少なくとも白鳥には、国境はない

できれば白鳥には、シベリアの空で、イマジンを、ホモ・サピエンスに向かって口ずさんでほしいものです。

NHKテレビドラマ「赤ひげ」から



山本周五郎の赤ひげは、私の好きな小説、ドラマです。江戸時代の民医連みたいなイメージです。NHKでドラマ化された場面で、ヤクザと使用人の竹造とのやりとりです。

ヤクザ:こんな仕事で、いくら貰えるんだい

竹造:銭金じゃねえ

赤ひげと保本のやりとりです。

保本:医者としての先生を支えているものは何でしょうか？

私は、恵まれた自分への後ろめたさです。

赤ひげ:随分難儀なものだな。

そうだな、欲だ。

みなみなが、理不尽な苦勞に苛まされることなく暮らしていける姿をみたい。

保本:随分難儀なものです。

赤ひげ:お前に言われたくない。

自問自答です。

Q:なぜ、コモンとか無差別平等の医療を、私は求めるのか？

A:突き詰めればエゴイズムかな？(自己愛)

生まれ落ちた自分が差別されたり不平等に扱われたくないから

(親ガチャという表現がありますが、人はどこにどのように生まれ落ちるかは自分で決められない。たまたま私は、両親が教員という相対的に恵まれたところに生まれた。)

虎に翼の「なぜ人を殺してはいけないのか？」の問に、20年後、寅子は、「奪われた命は元には戻せない。死んだ相手とは言葉を交わすことも、触れ合うことも、何かを共有することも永久にできない。だから人は生きることと尊さを感じて、人を殺してはいけないと本能で感じている」「理由がわからないからやっていいじゃなくて、わからないからこそやらない。奪う側にならない努力をすべき」と伝えた。

さすが法律家、随分むずかしい答えです。

赤ひげ流に言えば、

エゴイズム(自己愛)だ、自分は死にたくないから他人を殺してはいけない。と

以上、とりとめのない話になってしまいました。この辺で終わります。

# 憲法9条を握って、「トボトボ」と

二十一年三月二十日 枢密院ニ於ケル幣原総理大臣ノ憲法草案ニ関スル説明要旨  
しではらきじゅうろう

.....

次ニ第九ハ何処ノ憲法ニモ類例ハナイト思フ。日本ガ戦争ヲ抛棄シテ他国モ之ニツイテ来ルカ否カニ付テハ余ハ今日直ニサウナルトハ思ハヌガ、戦争抛棄ハ正義ニ基ク正シイ道デアツテ日本ハ今日此ノ大旗ヲ掲ゲテ国際社会ノ原野ヲトボトボト歩イテユク。之ニツキ従フ国ガアルナシニ拘ラズ正シイ事デアルカラ敢ヘテ之ヲ行フノdeal。原子爆弾ト云ヒ、又更ニ将来ヨリ以上ノ武器モ發明サレルカモ知レナイ。今日ハ残念ナラ各  
ナガ  
国ヲ武力政策ガ横行シテ居ルケレドモ此処二十年三十年ノ将来ニハ必ズ列国ハ戦争ノ抛棄ヲシミジミト考ヘルニ違ヒナイト思フ。其ノ時ハ余ハ既ニ墓場ノ中ニ在ルデアラウガ余ハ墓場ノ蔭カラ後ヲフリ返ツテ列国ガ此ノ大道ニツキ従ツテ来ル姿ヲ眺メテ喜ビトシタイ。

以上ハ戦争抛棄ノ条項ニ関シ外国新聞記者ニ語ツタ余ノ所憾デアルガ、余ハ此ノ考ヘガ甘イ考ヘダト云フ人ガアルカモ知ラヌガ、**確ク信ジテ疑ハヌ**ノdeal。

.....

最後に、戦後80年日本を守ってきた憲法・特に9条ですが、最近危うくなってきていますが、これは握って離さないでいきたいと思えます。

よく、押し付け憲法などと言われますが、当時の幣原総理大臣の記者会見の中身をすれば、そんなものではないとわかります。

次に、第9はどこの憲法にも類例はないと思う。日本が戦争を放棄して他国もこれについてくるか否かについては、余は今日直ちにそうなるとは思わぬが、戦争放棄は正義に基づく正しい道であって、日本は今日この大旗を掲げて国際社会の原野をとぼとぼと歩いていく。

これにつき従う国があるなしに拘わらず正しいことであるから、敢えてこれを行うのである。原子爆弾といい、また更に将来より以上の武器も發明されるかもしれない。

今日は残念ながら各国を武力政策が横行しているけれども、ここ20年30年の将来には必ず列国は戦争の放棄をしみじみと考えるに違いないと思う。

この時余はすでに墓場のなかにあるであろうが、余は墓場の蔭から後ろを振り返って、列国がこの大道につき従ってくる姿を眺めて喜びとしたい。

以上は戦争放棄の条項に関し外国新聞記者に語った余の所管であるが、余はこの考えが甘い考えだという人があるかも知らぬが、硬く信じて疑わぬのである。